

捕獲柵設置によるサルの被害防止対策

1 要旨

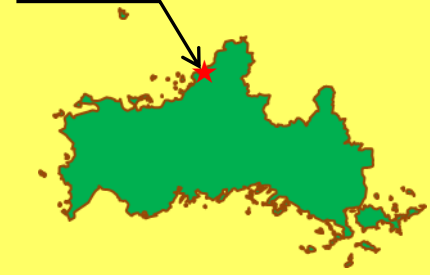
阿武町の西部に位置し水稻を基幹作物とする中山間農業地域である。近年イノシシやサルの生息頭数の増加により農作物の食害のみならず、ほ場の畦畔や法面、防護柵の破壊など多大な被害を受けるようになった。

また、特にサルによる被害が甚大であり、農作物への被害に加え人に対する威嚇などの加害行動も発生し、防護柵の設置や追い払いでは被害防止とならず、農作物の生産性や営農意欲の低下を招いていることから、環境整備やサル天井侵入型移動式捕獲柵等を設置し被害防止対策に取り組んでいる。

2 地区の概要

| | |
|--------|----------------|
| 地区名 | 阿武町 宇久地区 |
| 戸数 | 29戸（うち農家19戸） |
| 耕作面積 | 田13.3ha、畑1.2ha |
| 主な作物 | 水稻、野菜、果樹 |
| 加害獣種 | サル |
| 対策実施年度 | 令和元年度 |

阿武町 宇久地区



3 被害の状況と課題

ワイヤーメッシュの設置によりイノシシによる被害は徐々に軽減しているがサルによる野菜、果樹の食害が発生している。

サルに関しては、防護柵の効果が無く、集落ぐるみの追い払いを行っているものの再度出没している。

4 取組内容

(1) 被害防除・生息地管理

遊休農地発生防止のための保全管理を実施し、放任果樹の除去及び農作物の残渣の処理、防護柵の補修を地域ぐるみで適切に実施する。

(2) 捕獲（個体数管理）

①既存のイノシシ捕獲柵の周辺整備を行い、計画的かつ効率的な捕獲を実施。また、新たにサル天井侵入型移動式捕獲柵を設置し加害レベルの高いサルを群れごと捕獲する。

②地域・集落による広域的かつ集落ぐるみによる狩猟免許取得を推進し鳥獣被害防止に対する意識の向上をはかり捕獲隊員の育成、確保に努める。



捕獲柵の設置

5 取組の成果

設置後、サルが捕獲柵の周辺に寄り付かない。姿が見られない。

このため、農事組合法人と猟友会によりエサの工夫を行うが、効果が出ない。

今後も地区猟友会が主体となり管理徹底を行い、成果に繋がる取り組みを行っていく。

(千円)

| 区分 | 令和元年度 | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 令和4年度 | |
|----|-------|-------|-----|-------|-----|-------|----|
| | 実施前 | 実績 | 増減 | 実績 | 増減 | 実績 | 増減 |
| サル | 400 | 360 | ▲40 | 330 | ▲70 | — | — |

6 地区代表者のコメント

地区猟友会も努力されているが、群れとして捕獲柵に寄り付かない。

サルの移動もその都度変化するので、今一度、地域のサルの生態を地区猟友会と一緒に点検して、より多くの成果が出るような捕獲柵にしていきたい。

7 今後の取組

捕獲柵を効率的に利用するため、生息域、出没地域の状況把握が重要であり、関係者や関係機関と連携し、地域一体で被害防止へ対応できる組織づくりを目指す。

また、効率的に捕獲が可能な場所に捕獲柵を設置し、本地区のみならず、周辺集落の被害防止にも取り組む。